



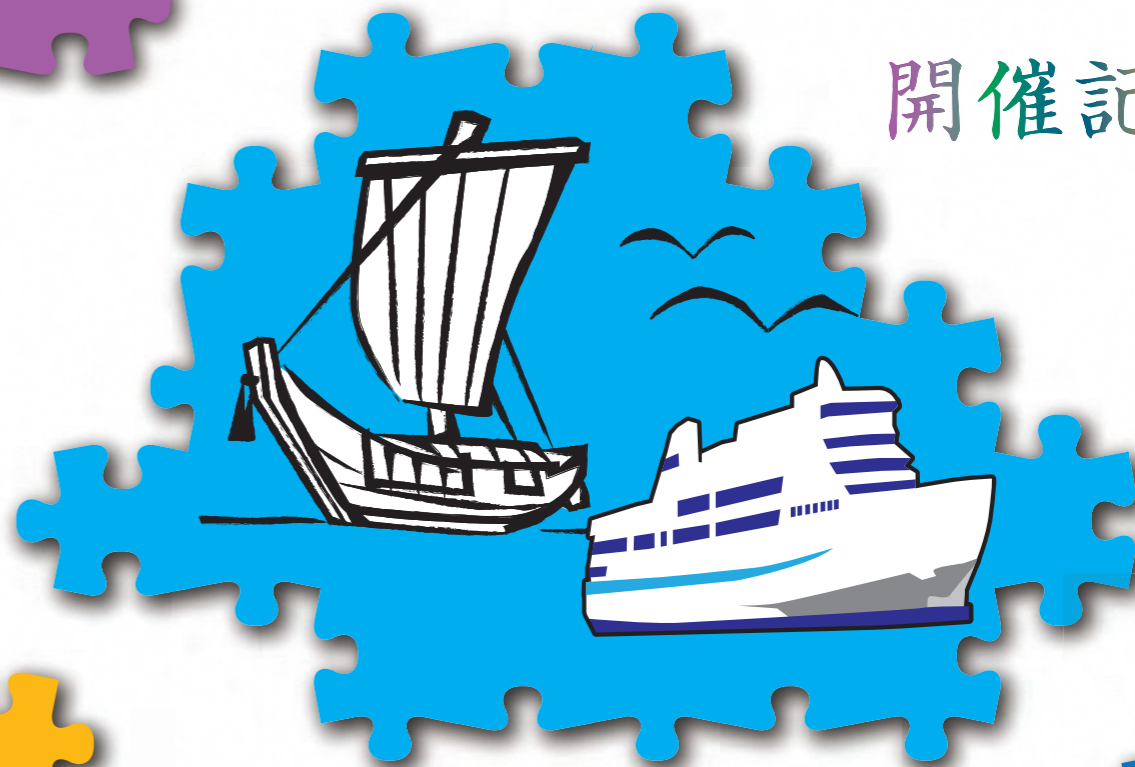
Hakodate
Niigata
Yokohama
Kobe
Nagasaki

温故知新

五港のキズナを

未来へツナグ

開催記録



開港5都市
景観まちづくり会議
2022新潟大会

2022 9/23・24・25
fri sat sun

◆会場／朱鷺メッセ、他市内会場

◆日程／2022年 9月23日(金・祝)・24日(土)・25日(日)

お問い合わせ／
新潟市まちづくり推進課
〒951-8554 新潟市中央区古町通7番町1010番地
TEL.025-226-2707 E-mail:machisui@city.niigata.lg.jp

温故知新

～五港のキズナを未来へツナグ～

ごあいさつ

新潟大会の開催に向け、私たちは4月から月2ペースで実行委員会を開催してきました。FG会議を全体会議Ⅱとする案をはじめ、なかなか意見がまとまりませんでした。9月に入り何とか大会の全体イメージや流れがまとまりました。

結果的には、「食」を中心とした新潟の持つ「地の豊かさ」を他都市の皆さんに知っていただけたと思います。また、今後5都市で共有できるテーマの1つとして、新たに「五港学」を提案させていただきました。

長崎で始まったFG会議も1周回って定着しました。若手のみならずシニアも、各都市に共通する情報を掘り起こし、狼煙をつなぎ、今まで以上に五港のつながりを発信していきましょう。ご参加いただいた皆様とご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

開港5都市景観まちづくり会議 2022 新潟大会実行委員会
実行委員長 本間 龍夫

INDEX

プログラム	1
全体会議	2
ウェルカムパーティー	6
分科会1	8
分科会2	10
分科会3	12
分科会4	14
分科会5	16
全体会議Ⅱ	18
オプション企画	20
FG会議	23
行政会議・代表者会議・全体会議Ⅲ	24
大会宣言	25
沿革	26
規約	27
大会歌・大会シンボルマーク	28
参加団体・実行委員会	29

9/23
(金・祝)

13:00~14:00 受付・ブースセッション

会場/朱鷺メッセ 2F中会議室

14:00~17:00 全体会議Ⅰ「時空を超えた五港のキズナ」

会場/朱鷺メッセ 2F中会議室

18:00~20:00 ウェルカムパーティー

会場/ANAクラウンプラザホテル新潟

9/24
(土)

分科会 1 開港場新潟の底力 - 米・人・学問 -

集合/白山神社大鳥居前



分科会 2 過去と未来が醸すまち

集合/新潟駅万代口・観光案内所前



分科会 3 新潟市民も知らない湊新潟のディープ下町隠れた歴史巡り

～全国有数の遊郭街跡と廻船問屋街を歩く～

集合/コンバインドカフェ五徳屋十兵衛



分科会 4 食・町・文化をワイワイ巡る湊町新潟古町の新旧よいとこ探訪

集合/喫茶エトアール プリュス



分科会 5 水辺景観を活かしたにぎわい空間を創出する都市未来像

～国際MICE CITYを目指して!～

集合/新潟日報メディアシップ・正面玄関前



16:00~18:00 全体会議Ⅱ「未来へツナグ」 新潟市民プラザ

オプション企画

〈企画1〉 五港学事始め～未来への一歩 16:00~18:30

〈企画2-1〉 FG meeting 2nd 18:30~20:00

〈企画2-2〉 人気の新潟日本酒飲み比べ・本町夜ツアー 18:30~20:30

〈企画2-3〉 新潟の郷土料理と地酒を楽しむ会 18:30~20:30

9/25
(日)

8:50~9:20 FG会議 会場/信濃川やすらぎ堤みずべリング

9:00~9:30 行政会議 会場/クロスバルにいがた

9:40~10:20 代表者会議 会場/クロスバルにいがた

10:30~11:30 全体会議Ⅲ 会場/クロスバルにいがた

オプション企画

〈企画3〉ぶらり路線バスで行く新潟町散歩!! 12:00~15:00

全体会議 I 「時空を超えた五港のキズナ」

会場: 朱鷺メッセ 2F中会議室



Program

- 開会式
- 主催者あいさつ
- 新潟市長あいさつ
- 基調講演
- 各都市活動報告
 - 函館市
 - 横浜市
 - 神戸市
 - 長崎市
- 五港学のススメ
- パネルディスカッション



開会式

司会: 渡邊 秀太
 手部 純

主催者あいさつ
 実行委員長: 本間 龍夫

開催都市歓迎あいさつ
 新潟市長: 中原 八一



基調講演

「新潟湊の成り立ちとその歴史・風土」

講師: 坂井 秀弥 氏
 (奈良大学名誉教授・新潟市歴史博物館館長)

略歴
 1955年新潟市沼垂生まれ。関西学院大学大学院修了。新潟県教育庁、文化庁、奈良大学をへて2022年から新潟市歴史博物館館長。学術博士、日本遺跡学会長。考古学と地域史、文化財と地域づくりに関心をもつ。著書に「古代地域社会の考古学」(同成社)、「日本海域歴史大系」2(清文堂)など。



都市新潟の歴史的な原点は、信濃川河口に立地し、日本海側屈指の港町として発展した近世の新潟町にある。新潟湊は日本海に注ぐ大河、信濃川の河口に立地している。他の開港4都市(函館・横浜・神戸・長崎)が海に面している点で明確に異なる。信濃川河口は、広大な内水面と列島各地・海外を結ぶ日本海との結節点であり、北国街道など陸路とも交わる。多様な人々や物資が集散する重要な要衝だった。

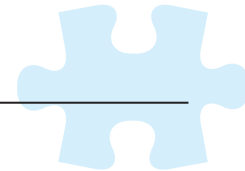
これほどの大河が貫流する都市は稀だ。その川岸に展開した新潟と沼垂は掘割を縦横にめぐらす水郷の町であった。戦後その役割は失われ、1960年代にはすべて埋め立てられ道路と変った。あのとき、掘割を残していれば情緒ある町になっていたのではないか。そんな声も聞かれる。しかし、あの時代、水路のまま維持するには新潟はあまりにも大きかった。

その一方、失われた水路網は拡張や変更といった融通がききにくいこともあり、17世紀の地割・街区はほとんど変わらずに残る。子細に見れば、湊町の豊かな経済力を示す近世・近代の橋・名勝・社寺・商町家・花街など多様な文化・文化財も豊富だ。近世から近代が巧妙に引き継がれた魅力が息づく。これらを活かしつつ、時代に応じた変化を周到に加えることが、これからの景観まちづくりに求められる。

文化財に半世紀関わってきた私は、その保護と継承とは「地域の文化財を慈しみ、わが町を育む」ことだと考えている。そのためには、市民・住民、行政、専門家の三位一体の活動が重要だ。市民のほか地域や企業に広がる動きにも期待したい。



各都市から事例発表



【函館市】 函館景観まちづくり協議会代表 佐々木 馨

2021年7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録が決定。西部地区再整備事業では「株式会社はこだて西部まちづくりRe-Design」を設立、元町公園で「函館西部地区ブロックパーティー」を開催したほか、旧北海道庁函館支庁庁舎を飲食店にリニューアル。「第34回市民創作函館野外劇」を開催。五稜郭地区の4つの商業施設と公園、地下道を会場に「五稜郭まちなかフェスティバル」を開催。



【横浜市】 横浜市都市デザイン室長 光田 麻乃
Yocco株式会社 遠藤 望

「横浜市都心臨海部 夜間景観形成ガイドライン」策定。山手133番館復元。長者橋認定。横浜都市デザイン50周年記念事業を開催。これまでの都市デザインの7つの目標と取組を振り返るとともに、有識者ヒアリングで新たな潮流をつかみ、「未来会議」で都市・横浜の未来のあるべき姿を検討。



【神戸市】 神戸市景観形成市民団体連絡協議会会長 清水 俊博

三ノ宮駅前などで公共空間の活用実験。こども図書館、アトア(水族館)など新たな施設が竣工。トアロード中央商店街振興組合では日本語、英語、フランス語、中国語でイメージビデオ「TOR is my ROAD」を作成。



【長崎市】 長崎居留地歴史まちづくり協議会 岩本 諭

今日、西九州新幹線が開業。各地区のまちづくり協議会が独自の活動を展開。長崎居留地エリアでは、「長崎居留地歴史まちづくりランドデザイン」を策定。「歴史まちづくり計画」を基に「アクションプラン」を作成中。「2022長崎居留地まつり」を開催。「長崎タータン」を活用しグッズ開発、衣装デザイン、フラッグデザインなどのコンペを開催。「長崎居留地BAR-GAI」開催。今後、新市庁舎、長崎スタジアムシティなどが開業予定。

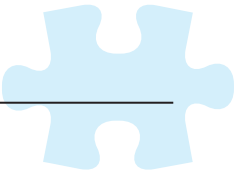
五港学のススメ



歴史都市新潟研究会 杉山 節子

開港に関わる文化財・歴史資料を活かしたまちづくり。観光開発が望まれる。手始めとして、前島密や南部常次郎などのほか、開港期新潟の奉行、知事、通弁など、五港を繋いで活躍した人物たちの事績を紹介。5都市が互いに関わりあって発展してきた歴史を学び、現在に伝えられている歴史的遺産を活かしたまちづくりが次世代に引き継がれることを願う。

「五港のキズナを未来にツナグ」



函館市	佐々木 馨	(函館景観まちづくり協議会代表)
横浜市	光田 麻乃	(横浜市都市デザイン室長)
神戸市	曹 祐仁	(南京町景観形成協議会)
長崎市	梅元 建治	(長崎居留地歴史まちづくり協議会)
新潟市	本間 海渡	((特非)新潟海洋開発)
コーディネーター	上杉 知之	(にいがた花絵プロジェクト)



佐々木 馨さん



光田 麻乃さん



曹 祐仁さん



梅元 建治さん



本間 海渡さん



上杉 知之さん

上杉 基調講演では、新潟湊の成り立ちについて歴史という時間軸から切り取った。五港学のススメでは、その開港期における5都市の関係性について空間軸で結んだ。ここからは、これからの5都市の新しい関係性を未来にツナグ取組について考えてみたい。

本間 浸食が激しかった新潟の砂浜が回復してきており、ビーチの賑わいづくりに取り組んでいる。イベントの景品に5都市の名産品を取り入れるなどの工夫も。5都市の交流をFGから更に次の世代にもつないでいきたい。

佐々木 函館市で始めた「バル街」が長崎市でも実施されるようになった。逆に、長崎市からは世界遺産登録の先輩として、その取組について学ばせてもらった。

梅本 神戸タータンに続けと、市役所で眠っていた長崎タータンの活用に取り組んでいる。まちづくりを次世代に引き継ぐには「思い」が大切。若者には自由な発想をどんどん実験してもらいたい。

曹 5都市のつながりを多くの市民に知ってもらおう情報発信が重要だ。2年前には百貨店を会場に「開港5都市フェスタ(物産展)」を企画した。

光田 コロナ禍で価値観が変化し、まちの使い方も変わっていく。日常と非日常の境界線も無くなっていく。これからの景観まちづくりについて、5都市で一緒に考えていきたい。

上杉 今後、5都市の関係性をより強固につないでいくとともに、次世代にもつないでいきたい。



ウェルカムパーティー

会場:ANAクラウンプラザホテル新潟

2022年9月23日、18:00から万代地区に位置する「ANAクラウンプラザホテル新潟」にてウェルカムパーティーが開催されました。各都市から97名が参加され心温まる盛大な会となりました。本間実行委員長ご挨拶の後、朝妻副市長の乾杯で各都市の交流がスタート。テーブルには旬の食材をふんだんに使ったお料理が振舞われ、お土産コーナーにも人だかりができていました。その後アトラクションとして「こはく会」(民謡連盟)の皆様が登場され、「新潟甚句」を各都市の皆さんと大きな輪になって踊れたことは5都市の「絆」を感じるステキなシーンでした。

後半は都市ごとのご挨拶を頂き最後に新潟チームの挨拶のあと全員で大会歌「ウェルカム港街」を大合唱いたしました。

(関 京子)



分科会 1 「開港場新潟の底力」

— 米・人・学問 —

案内人 杉山 節子

- 白山神社(大船絵馬)
- ▼
- 県政記念館(旧米蔵跡)
- ▼
- 市島旧宅跡(阿賀野市)
- ▼
- 水原代官所(阿賀野市)
- ▼
- 市島邸(新発田市)
- ▼
- 絆己楼大野家(聖籠町)
- ▼
- イタリア軒(昼食)
- ▼
- みなとびあ
旧新潟税関
- ▼
- 新潟駅南口

江戸時代の新潟は、湊町であると共に、繁華な都市として全国的にも知られていました。幕末、日本海側にも開港場を設けた際、新潟が選ばれた理由もそこにあります。そして、繁華な都市としての新潟の繁栄を支えた主要な物資は、いうまでもなく米でした。

そこで分科会1では、江戸時代に官・民の米蔵が建ち並んでいた(白山島)を起点に、米の輸送に関わった人々の関係史跡を辿りました。



1. 白山神社周辺の蔵所跡

まず分科会1のスタートは、江戸時代に米蔵が建ち並んでいた<白山島>、現在の白山公園・白山神社に設定し、(白山島)に所在していた官立の蔵所から江戸・大坂への年貢米の輸送を描いた白山神社の「大船絵馬」などを見学しました。この船絵馬は、江戸後期から幕末に活躍した新潟の絵師である井上文昌が描いたもので、新潟での米の積み込みの様子や新潟を船出した年貢米が江戸・大坂に運ばれる様子を描いています。



白山公園(米蔵の跡)



白山神社「大船絵馬」



市島次郎吉家跡



水原代官所跡



市島邸(市島徳次郎家)



市島邸の展示を見学



大野家の私塾「絆己楼」



旧新潟税関庁舎

2. 市島次郎吉家と市島徳次郎家

江戸後期天保13年(1842)12月以後、越後国にあった江戸幕府の所領の年貢米を江戸・大坂に送る輸送を江戸幕府から請け負っていたのが、市島次郎吉正光という水原の富豪でした。そこで、分科会では、<白山島>よりバスで阿賀野市に移動し、①水原に所在していた市島次郎吉家の旧宅跡、②蒲原・岩船郡に所在する江戸幕府の直轄領の行政・司法の拠点であった水原代官所跡などを見学しました。

市島次郎吉家は、やはり水原に拠点を置いていた市島徳次郎家の筆頭分家の家柄です。そこで、分科会では、次いで新発田市天王に移動し、「市島邸」として知られている市島徳次郎家を訪れました。同家は、明治初期までは水原を拠点としており、明治2年(1869)に水原に「越後府」(現在の新潟県庁の前身)が設けられた際は、私有地の一部を献上し、その場所に越後府が設けられたほどの豪家で、明治時代に火災などのために水原より天王に拠点を移しました。分科会では、市島家の宗家である徳次郎家に伝えられた文化財などを見学しました。

3. 絆己楼大野家

市島家のように、越後国では、江戸時代を通じて有力農民・有力町人が大きく成長していました。そして、幕末から明治時代の越後国を担う多くの人材が、そうした階層から輩出しています。彼らのような人材を輩出する背景にあったのが、漢学・国学などの学問的なネットワークです。特に幕末の戊辰戦争に際しては、越後国の諸大名がいわゆる「奥羽越列藩同盟」に加わったのと対照的に、有力農民の子弟らは自主的に農兵部隊を結成し、新政府軍に加わるなどして活動しました。

彼らが学んだ私塾の中でも、幕末・明治時代の人材を多数輩出した二つの私塾が、北蒲原郡聖籠町大字諏訪山の「絆己楼」と燕市粟生津の「長善館」です。長善館が、現在の南蒲原郡・西蒲原郡地域を中心とする人々が多く学んだ私塾であったのに対し、大野家の塾である「絆己楼」には、北蒲原郡・中蒲原郡の人々が多く学びました。

そこで、この分科会では、新発田市天王の市島邸よりバスで移動し、この絆己楼大野家を見学しました。ここでは、先に阿賀野市で訪れた水原代官所の門が明治時代に移築され、現在に至るまで保存されている場所でもあります。絆己楼を開いた大野耻堂やその弟である大野静軒兄弟の門人からは、新潟・蒲原地域の明治時代を担う人材を多く輩出しました。坂口安吾の父で、新潟県会議員や帝国議会の衆議院議員、新潟新聞社長などを務めた坂口仁一郎(五峰)も、この塾の出身です。

こうして、「米・人・学問」をテーマに蒲原地域の史跡を見学した後、イタリア軒で昼食をとり、最後に開港期の新潟を代表する史跡・文化財である旧新潟税関を見学し、好評のうちに分科会を終えることができました。ご協力をいただきました皆様に感謝いたします。



分科会2

「過去と未来が醸すまち」

～沼垂の歴史遺構と地域リバイバルを学ぶ～ 案内人 高野 善松

- 新潟駅
- ▼
- 沼垂小学校
- ▼
- 今代司酒造
- ▼
- 沼垂白山神社
- ▼
- 峰村醸造
- ▼
- 栗の木川遺構
- ▼
- 沼垂テラス商店街
- ▼
- 寺町界限
- ▼
- 沼垂ビール
(昼食・意見交換)

新潟駅から徒歩1キロの沼垂(ぬつたり)は、江戸時代の初め17世紀に、日本屈指の大河、信濃川・阿賀野川の乱流に翻弄され4回も移転し、350年ほど前にいまの地に落ち着きました。

沼垂は、昭和40年代まで、信濃川につながる栗ノ木川や多くの堀が町をめぐり、かつては越後鉄道のターミナル駅として、町に人々はあふれ、酒や味噌、醤油の醸造所が数多くあった発酵の町。

江戸時代の新発田藩の米蔵跡、明治期以降の新潟の近代化を支えた駅と鉄道、港、工場群など、その痕跡と営みを辿るとともに、今代司酒造(酒蔵)、峰村醸造(味噌蔵)、沼垂ビール(クラフトビール蔵)そして若いセンスが光るクラフトショップとして再生したレトロな長屋の沼垂テラス商店街をたずね、沼垂のブランディング再構築を掲げてリバイバルに取り組む地元事業者との交流を行いました。



沼垂白山神社本殿で記念写真

沼垂の歴史遺構をたずねて

分科会のスタートは創立150周年、歴史ある広い校庭の沼垂小学校のホール。ここは江戸時代、広大な北蒲原平野を領地としていた新発田藩の米蔵があった場所。新潟市歴史博物館(みなとびあ)館長の坂井秀弥氏(沼垂出身)より、なぜ、この場所に米蔵ができたのか、沼垂のまちなみがなぜ今の形になったのか、など沼垂のなぞについて、その地理的環境、歴史的経緯をご自身の鋭い考察を交えて解説いただきました。その後、沼垂米蔵、栗の木川、沼垂の掘割跡、廃線となった鉄道遺跡などを巡りました。改めて、生まれた町が現在の姿となった歴史、地理、環境を学ぶことが、町の再生を進める上で、関係者にとって重要な共通認識であり、必要不可欠なプロセスであることを再確認しました。



沼垂小学校にて基調講演



今代司酒造で酒蔵見学



沼垂の総鎮守、沼垂白山神社



峰村醸造の味噌蔵を見学



廃線となった信越線鉄橋付近



商店街の誕生ストーリーを聞く



お昼の弁当に沼垂ビール

2. リバイバルに取り組む地元事業者との交流

沼垂の歴史遺構をたずねながら、今代司酒造では酒蔵を見学して、純米醸造にこだわる商品、ブランド戦略、海外展開の取り組みを伺いました。次の峰村醸造では味噌蔵見学をして、味噌商品に留まらない漬物、麴をつかった甘酒など新商品開発の取り組みを伺いました。次に訪れた沼垂テラス商店街は、2016年に「地域再生大賞」準大賞に、2022年に全国商店街DXアワード「審査員特別賞」受賞した、全国的にも再生商店街事例としてすっかり有名になったエリア。その誕生から今までの取り組みを伺いました。最後の沼垂ビールでは、「発酵の町沼垂ビール」というビジネスコンセプトを掲げて展開する、地域密着型小規模クラフトビール事業について伺い、醸造開始6年目のマイクロブルワリーを見学しました。

3. トークセッション

新潟市歴史博物館館長の坂井秀弥氏、株式会社テラスオフィス代表の田村寛氏、沼垂ビール株式会社代表の高野善松氏にご参加頂き、「まちの活力にぎわいをどう作り上げるか?」というテーマで、各自の体験、お考えを語って頂きました。

坂井館長には「大阪から新潟に戻られて、どのような気持ちで今後の「みなとびあ」を考えておられるのか? 田村氏には「なぜ、沼垂テラスを立ち上げたのか?」高野氏には「沼垂でクラフトビール事業を立ち上げた理由は?」といった質問を投げかけて、それぞれ、新潟沼垂への地元愛にあふれる動機、苦労談、意気込みを語って頂きました。

そのあと、まちの活力・賑わい造りのヒントについて、参加者からの感想、意見交換を行い、「それぞれが主体的に、手作りで魅力あるまちづくり」に取り組む必要性を感じました。



大きなお寺がならぶ寺町界限



昼食後、沼垂ビアバブでトークセッション

分科会3

新潟市民も知らない しもまち 湊新潟のディープ下町隠れた歴史巡り ～全国有数の遊郭街跡と廻船問屋街を歩く～ 案内人 若木 立也

- コンバインドカフェ
五徳屋十兵衛
- ▼
- 旧小澤家住宅
- ▼
- 魚や片桐寅吉(昼食)
- ▼
- 遊郭街跡地
- ▼
- 五十嵐家住宅
- ▼
- 新潟市歴史博物館

日時:2022年9月24日(土)9:00～15:00

参加人数:21名

かつての湊新潟の下町遊郭文化を現代風に蘇生させ町興しを目指すコンバインドカフェ「五徳屋十兵衛」から分科会3は始まる。



五徳屋十兵衛



花魁メイク実演を見学



屋上から下町を見渡す

9:00～ 五徳屋十兵衛に集合。五徳屋十兵衛店主の宮原氏とプロデューサー和田氏より新潟市の下町(しもまち)の概要(歴史背景、位置関係、特徴など)のレクチャーを受講する。

新潟市は江戸から明治にかけ開港5都市の一つとして北前船の寄港地天領貿易の玄関として栄え人口も日本有数を誇っていた。その貿易経済の興隆と共に花街も栄え日本3大芸妓の一つに数えられるまでになり花街文化は活況を呈していた。しかし、花魁(地位の高い遊女)が存在した日本でも有数の遊郭街でもあったことは新潟市民でも余り知る人は少ない。その大きな遊郭街が五徳屋十兵衛のある新潟市下町「しもまち」周辺に存在していたことも知りません。そこで五徳屋十兵衛は隠れた遊郭街の跡地や建物の存在をクローズアップし、それを利用した花魁撮影やコスプレ開放などをインターネットやSNSで日本中世界中に発信し注目を集めるようになりました。その結果日本中世界中から花魁コスプレを求めて若者が集まってくるようになってきた。もともと五徳屋十兵衛は「衰退する街中下町」しもまち「にさまざまな人の居場所を創り、画期的なイベントや事業で交流人口を増やし町興し」をすることを目的とするカフェとして2017年に設立された。イベントや事業をするカフェ(コンバインドカフェ)として花魁撮影体験スタジオ、コスプレ解放区、ペットフリー、着物街歩き、ジェンダーフリー、男装カフェや大正ロマンなどのイベントを随時開催している。そうした活動がその後全国や地方のマスコミに数多く取り上げられ「しもまち」のPR活性化に貢献している。五徳屋十兵衛アカデミーのプロデューサー和田富美女史によれば「衰退した下町は宝の山で時代の最先端を行く地域」と言い切っている。この過去を知り掘り起こし深耕し新しく蘇らせるという五徳屋十兵衛のような前向き姿勢が新潟市活性化への鍵になることを学んだ。

11:00～ 五徳屋十兵衛隣の潰れたスーパーマーケットのビル内と屋上を見学。こんな場所でも花魁や着物などのコスプレ撮影に利用でき、素晴らしい写真が撮れることに驚く。



小澤家住宅



魚や片桐寅吉茶屋で昼食



五十嵐邸



花魁コスプレ撮影会



入船地蔵尊



湊稻荷神社

11:30～ 新潟市文化財 旧小澤家住宅を見学。別名「北前船の時代館」とも言われ明治初期、開港後、廻船問屋豪商の屋敷としては現存する最古建物である。

明治時代末期に家財蔵、新座敷など増築と合わせて築造された芝を張ったモダンな和風庭園が明治時代の豪商の興隆を表している。

12:00～ 魚や片桐寅吉港茶屋で昼食。明治37年「新潟中央水産市場株式会社」の前身「新潟鮮魚問屋」を立ち上げた初代社長の片桐寅吉が暮らしていた築116年木造住宅を海鮮料理が楽しめるお食事処に改装した。2020年には国登録有形文化財にも指定された。新潟の庭師「後藤石水」作の回遊式庭園を観ながら「海鮮丼ランチ」を戴く。ハプニングとして運営会社の藤田社長から丁寧な歓迎のご挨拶があった。

13:00～ 五徳屋十兵衛和田女史の案内で「しもまち」の遊郭街跡地本町14番町へ向かう。本町14番町は全国有数の遊郭街のあった地域。規模は全国の5指にはいる。昭和初期には100の貸座敷と500人もの娼妓が存在した。既に遊郭は存在しないし建物も一部を除いて壊され建て替えられているが、まだ遊郭の造りがそのまま残る建物一つ二つ存在する。その代表が五十嵐邸である。五十嵐邸は今空き家になっていて最近取り壊しも検討されていたが、五徳屋十兵衛の和田女史が花魁コスプレの撮影地として利用するとして待ったをかけた唯一の貴重な遊郭跡地である。ここでは今年7月にいがた花魁行列湊元花の宵と言うイベントも催されて注目された。この五十嵐邸内を和田女史の説明と共に観て廻る。「新潟の娼妓(遊女)と京都や新橋の娼妓との違いは拘束が余りなく出入りの自由が許されていて生活に密着していたので悲壮感が無かった」とのこと。間口が狭く奥行きが深い町屋造の建物には貸座敷と顔見せ座敷がそのまま残り、それをそのまま利用し花魁コスプレ撮影会に使っている。この日も花魁コスプレの撮影会を開催。参加者はこの日一番の大盛りあがりを見せていた。

14:00～ 五十嵐邸のある本町14番町の終点とも言える入船地蔵尊 浄信寺を訪れる。天明飢饉の犠牲者供養するため創建され、湊に出入りする船の安全も祈願したことから入船地蔵尊と言う。境内の千体地蔵堂には十二支の守り本尊とともに圧巻の金色地蔵尊1557体が安置されている。遊郭の娼妓も足繁く通ったとも言われている。

14:00～ 早川堀通りから湊稻荷神社そして新潟市歴史博物館みなとびあへ。江戸時代、大正、昭和初期の新潟市の堀を再現した早川堀通りを歩き湊稻荷神社に向かう。

300年以上前に鎮座した湊稻荷神社には珍しい回る高麗犬があります。高麗犬に願掛けをしつつ、文科会3のゴール地点の信濃川の見えるみなとびあへ向かう。みなとびあで記念写真を撮り解散となる。

「気付き」
新潟市には観に行くところは何にもないという市民が多い。しかし今回の分科会3を通じ何気なく通り過ぎていた街角に隠れた歴史が眠っていることを認識させられ十分新潟観光のコンテンツに成りえることを実感しました。それを五徳屋十兵衛が掘り起こし今風に表現している点や考え方に新潟観光のヒントが有るような気がします。温故知新の実践を学びました。

分科会4

食・町・文化をワイワイ巡る

湊町新潟古町の新旧よいとこ探訪 案内人 渡邊 秀太

- 喫茶エトアール プリュス
(モーニング朝食)
- ▼
- 市民活動支援センター
- ▼
- 上古町の百年長屋SAN
- ▼
- 港すし(昼食)
- ▼
- 吉川酒店
- ▼
- 柳都カフェ
- ▼
- 古町ルフル

分科会4では、新潟古町を探訪しました。本大会のテーマは温故知新。そこで、古いもの・新しいものを視て聴くことで、現在の景観を楽しみながら確かめようという思いのもとにコースを設定。そして、楽しむ観点から、新潟の食を随所に散りばめ、コミュニケーションを大切にすることを心がけました。

コース概略は、喫茶エトアールプリュスに集合し、市民活動支援センター、上古町の百年長屋SAN、人情横丁・ぶらっと本町、鍋茶屋通り、港すし、吉川酒店、柳都カフェを巡る構成です。

喫茶エトアールプリュスでは、皆で昭和レトロ喫茶のモーニングを食し、お腹を満たすと同時に、分科会の始まりとして参加者間の距離を縮めるコミュニケーションの時間としました。また、新潟大会の実行委員長であり、喫茶店オーナーでもある本間実行委員長から、喫茶店の話などを織り交ぜた挨拶をいただきました。

市民活動支援センターに向かう路程では、空き店舗シャッターに設えられた新潟の忠犬タマ公アートの紹介と集合写真撮影、万年筆病院として長い歴史を持つ天祐堂や、新潟B級グルメの代表格タレかつ丼の名店とんかつ太郎を經由し、センター到着後は、自己紹介、コース概要、補助資料として準備した大正・昭和期の古写真集の説明をしました。

その後、古町5番町では、漫画ドカベン銅像と並んで記念写真を撮る参加者も多く、映画館跡地に設置された日本マンガ・アニメ専門学校、会津八一生誕の記念碑を通り、上古町では、古着屋を中心としたアパレルショップなどを視ながら、上古町の百年長屋SANに向かいました。

SANでは、副館長の金澤氏から施設紹介として、金澤氏が書いた場のイメージを「今やらないで、今後やるのかな」という後押しのもとに具現化できたこと、築百年の長屋を再々活用・リデザインしたプロジェクトであることなど、プロセスやコンセプトの面から講演いただきました。



エトアールプリュスのモーニング



漫画ドカベン像



忠犬タマ公アート



SAN副館長・金澤氏による講演



人情横丁の阿部鮮魚店



新旧日本酒の飲み比べ



錦屋酒店・加藤氏による説明



港すし・川上氏による説明

次の目的地であり昼食会場の港すしに向かう路程では、屋台風のラーメン屋や店頭で魚を焼いている鮮魚店などが軒を連ね、懐かしさ溢れる人情横丁、新潟の地物野菜が並ぶ本町通り、ビールイベントが賑わいをを見せていた古町7番町、伝統と格式ある鍋茶屋と石畳の道が雰囲気の良の鍋茶屋通りを經由。港すしでは店主の川上氏による寿司の話、錦屋酒店の加藤氏から日本酒の説明を聞き、丁寧に絶品の寿司と日本酒を合わせる贅沢な時間となりました。昼食では、街並みの新旧から視点を変え、食の新旧に意識を切り替え、伝統的な定番の酒、酒蔵が工夫を凝らす最近の酒を準備。また、日本酒については、酒屋の多様性も感じていただきたく、こびら通りにある地酒防衛軍吉川酒店にて、解説付き試飲体験も行いました。

クライマックスは、古町花柳界の一端を気軽に感じることができる、美や古の名で知られた歴史ある待合のお座敷の一部をカフェにした柳都カフェでの、芸妓の舞の鑑賞です。この日の芸妓の舞も華やかで美しく、ほろ酔いの中で、うっとり心地よい時間となりました。

さて、「景観とは、人間をとりまく環境の“ながめ”にほかならない」という言葉があり、「ながめ」には主観が伴うという説があるそうです。この分科会では、各開港都市で活躍されている方々から、満足した、面白かったという感想を聞くことができたため、古町の「ながめ」は、きっと良かったのだろうと推測します。残念なことに「新潟には何もない」という話を聞くことがあります。しかしながら、「ながめ」に主観が伴うものとするれば、見る人が見れば素晴らしいものが溢れており、古町の景観については、もっと前向きに評価すべきであると言えるのではないのでしょうか。他者の視点から自分のまちを考えることにつながった、有意義な分科会となりました。



吉川酒店での解説付き試飲体験



古町芸妓との記念撮影

分科会5

水辺景観を活かした にぎわい空間を創出する都市未来像

～国際 MICE CITY を目指して!～ 案内人 三谷 博

古くは川湊として栄えた新潟港、現在は、朱鷺メッセを中心とした都市型にぎわい拠点になりました。県内有数の集客地域であるこの「万代島地区」の課題として「他拠点との周遊性」と「みなと景観づくり」があげられます。萬代橋～朱鷺メッセをつなぐ信濃川右岸緑地公園の活性化を軸に、コロナ禍という閉ざされた環境(鎖国)から、新しい時代の幕開け=開港都市としての未来像を、皆さんとともに考えていきます。



1.街歩き 萬代橋～信濃川右岸緑地公園～朱鷺メッセ

分科会5では、5港関係者と一般市民あわせて26名がご参加いただき、雨天のなか、まずは、集合場所新潟日報メディアシップ から、萬代橋～信濃川右岸緑地公園～朱鷺メッセまで、約1km の街歩きをしました。萬代橋・信濃川や新潟西港の地理や歴史的経緯を踏まえてご案内、現状の視察と課題の共有をいたしました。



集合場所:メディアショップ



柳都大橋

- 新潟日報メディアシップ
正面玄関前
- ▼
- 萬代橋
- ▼
- 万代テラス
- ▼
- リバーフロントパーク
- ▼
- 朱鷺メッセ
- ▼
- 佐渡汽船
- ▼
- 万代島多目的広場
- ▼
- ピアBandai
(昼食)
- ▼
- 万代シテイ



ディスカッション



ディスカッション



展望室



展望室から新潟西港



ピアBandai



万代シテイ屋上デッキ

2.ディスカッション

朱鷺メッセの会場(展示ホール、メインホール等)を視察後、「水辺景観を活かしたにぎわい空間を創出する都市未来像」について、ディスカッションの時間を設けました。

- ・ MICE の概要説明 (MICE の効果、MICE を活用した地域活性化及び事例)
- ・新潟市のMICE 誘致内容の紹介 開催環境、朱鷺メッセ、補助金制度
- ・万代島地区将来ビジョンと「にいがた2km」の都心のまちづくりの概要説明
- ※MICEの活用及び都心の水辺空間の魅力を活かした賑わいの創出について、各都市からの意見・感想をいただき、有意義な意見交換ができました。

- Meeting (企業・団体等の会議)
 - Incentive Travel (企業・団体等の行う報奨・研修旅行)
 - Convention / Conference (団体、学会等が行う会議等)
 - Exhibition / Event (展示会・見本市、イベント)
- の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。



新潟都心/回遊イメージ



MICEの活用 × 景観まちづくり

3.街歩き 展望室～ピア Bandai(昼食)～万代シテイ

展望室より、日本海、新潟西港、新潟島を眺望後、ピアBandai へ。日本海の幸に舌鼓、土産品など多彩なコンテンツのある施設を、参加者にはお楽しみいただきました。昼食後は、万代シテイへ移動し、改修事業によって整備された屋上デッキ等を見学・解散しました。



全体会議 II 未来へツナグ Let's make 50 years later together!!!!

会場:新潟市民プラザ 一緒に50年後を創りましょう!!!!



Program

■オープニングアクト

CHIBI UNITY
(世界3連覇の実力を誇るダンスユニット)

■各都市活動報告

- 長崎市 平山 広孝、牧田 悠依
- 神戸市 永田 泰資、藤本 はな、小川 嘉之、柳 憲司
- 函館市 北山 拓、岡田 暁
- 横浜市 小田嶋 鉄朗、坂口 祐太、遠藤 望
- 新潟市 結衣、浜浦小学校4年生

■レジェンドからのコメント

- 長崎市 桐野 耕一
- 神戸市 奈良山 貴士
- 函館市 里見 泰彦
- 横浜市 国吉 直行
- 新潟市 本間 龍夫

6年前の長崎大会で若手を中心に誕生したFG会議(Future Generation:次世代の意)。今回、初めて全体会議IIとして開催し、多くの参加者と学び合い、盛り上がりました。

日本海と信濃川に挟まれ、開港時の中心地を含む新潟島が誕生したのは、50年前。新潟市の治水、まちづくりに大きく貢献している関屋分水路の通水により誕生しました。

この新潟島誕生50周年を節目に、先人たちの功績に感謝すると共に、50年後を見据えて、「Let's make 50 years later together!!!!(一緒に50年後を創りましょう)」をテーマに開催しました。

会場となった古町地区のNEXT21は、江戸時代に新潟奉行所が立地していた場所で、周辺は江戸時代中期から明治時代にかけて寄港した北前船により、政治、経済の中心地として大きく発展しました。また、日本三大芸妓と称される古町芸妓などの文化も生まれ、現在に継承されています。

オープニングを飾ったのは、世界大会3連覇の実力を誇るダンスユニットCHIBI-UNITY。小学生から高校生の迫力あるダンスで会場の熱気が高まりました。その余韻に浸りながら、各都市2組ずつのプレゼンが行われました。

長崎市の平山さんは、開港5都市景観まちづくり会議が継続していくためにFG会議を提案した想いと引継ぎ続けられていることへの感謝の後に、被爆から100年となる2045年を見据え、次世代の育成を目的として立ち上げた「FG長崎2045」の取組みを紹介し、牧田さんは、多くの建物が失われている危機感から、関心をもってもらいたいとレトロな建物の見学会やイベントを通して使ったり、ニーズ調査を行ったりしている産官学の活動を紹介しました。

神戸市の小川さんと柳さんは、商店街の皆さんがお洒落に着飾った男前な写真に、メッセージを加えたポスターを街中に貼り出し、「BE KOBE 神戸は人の中にある」の精神を体現し、ヒトが景観となった「OSSANS」を紹介し、永田さんと藤本さんは、



新潟島



CHIBI-UNITYのみなさん



報告の様子



結衣さん



浜浦小学校4年生のみなさん

50年前を振り返り、大阪万博や山陽新幹線開業による当時の賑わいや街並みの様子、現在のヒト中心の道路空間の試みから25年後は歩行者中心の街を思い描き、50年後は高齢者が活躍できるローカルコミュニティの共生により社会を支える時代を思い描いた様子を紹介しました。

函館市の北山さんは、西部地区の再整備を官民連携で推進していくために市と地元企業、政府系ファンドが設立した会社の活動として、歴史的建造物の活用、ブランディング、アーティストとの連携による発信などを紹介し、岡田さんは、動くチラシとなってしまう路面電車をガイドライン作成やアドバイザーの組織化によって、函館の景観に寄与するデザインへ移行させた取組みと函館タータンの制作を目指していることについて紹介しました。

横浜市の小田嶋さんは、ウェブメディアとして歴史を生かしたまちづくりの紹介や独自のコラムを掲載している「ヘリテイジタイムズ横浜・神奈川」の紹介と共に、50年後は東京都庁が歴史的建造物として評価されるという将来目線を提示し、坂口さんと遠藤さんは、横浜の地域特性を盛り込み18区をモチーフとしたキャラクター「Yocco18」が発信する地域おこしとして、市や企業との連携や、商店街のプロモーション動画制作、LINEスタンプなどを紹介しました。

新潟市の古町芸妓結衣さんは、5年前の新潟大会で振袖としてプレゼンを行い、今回は留袖となった姿を披露しました。古町芸妓は、古町の文化を伝えていくことを目的に株式会社として運営されており、一見さんも歓迎し、会食だけでなく法事の席にも呼ばれることがあるという状況を紹介し、お座敷文化を体験して欲しいと呼びかけました。

プレゼンの最後を務めたのは、浜浦小学校4年生。総合的な学習として、小学校の近くの森を調べて、マツが多いことに気付き、風や砂から自分たちの生活を守っていること、生息する植物や生き物について学習してきたこと、地域や市と協働の森づくりとしてクロマツ除伐の体験学習にも取り組んできた様子を紹介しました。

また、年々注目度が高まっているFG企画について、多くの参加が可能のように全体会議に位置付けたと共に、世代間交流として、レジェンド世代の代表がFG世代と席を並べ、感想やアドバイスを述べました。

長崎市の桐野さんからは、50年後を見据えたテーマとしたプレゼンで、50年後に現役である小学生をプレゼンターとしたのは素晴らしい。長崎で小学生の総合学習に携わっている中で、少しずつ街の雰囲気が変わってきたと感じている。次世代に伝えていく必要性を感じているといった実体験を、神戸市の奈良山さんからは、ヘリテイジタイムズ横浜・神奈川の報告に対して、次回の函館大会にてスポンサーを付け、メディアも巻き込み、歴史的建造物の所有者を表彰するような取組みの提案があり、横浜市の国吉さんは、横浜市民が誇りをもち、他都市から訪れて欲しいという思いで進めてきた都市デザインの歩み、硬直化した行政のまちづくりを活性化させたいと開港5都市の活動を積み重ね、多くの人々の共感を得ながら、色々な活動が出てきていることについての紹介、函館市の里見さんは、FG会議に熱気を感じ、新潟市のプレゼンターであった小学生は50年後も活躍している世代で、新しい50年後をつくっていくという動きが生まれてきたことを喜ばしく思ったこと、新潟市の本間さんは、これまでFG会議に関わることが出来なかったが、今回取組みを知って、その意義を感じたとの感想があるなど、FG世代とレジェンド世代の共有を図りながら、最後は会場内の参加者が集い記念写真を撮影し、閉会し(新時代の幕を開け)ました。

再会を喜び、刺激と将来志向を共有すると共に、開催都市以外の参加者も積極的に運営に参画する姿が見られるなど、積み重ねてきた5都市のチーム力が発揮され、多くの参加者によって実現できた全体会議IIとなりました。(西野 廣貴)

オプション企画1 五港学事始め ～未来への一歩～

会場／割烹仕出し岡田本店(中央区本町通4) 案内人 杉山 節子

「五港学事始め」と称して、全体会議Ⅰで紹介した内容を基に、「本当は昨年を紹介し、この新潟大会でステップアップできればよかった。」と私の思いも伝え、「次回の函館大会で「五港学その1」をできるよう頑張りたい。」と皆さんと共感できました。分科会1のしおりも参考にしながら、食事を楽しみ充実した時を共にしました。「五港学事始め」については、強い関心を寄せていただきました。

オプション企画3 ぶらり路線バスで行く 新潟町散歩!!

案内人 杉山 節子

オプション企画3では、新潟の路線バス・循環バスなどを乗り継いで、新潟市の旧市街地である<新潟島>に所在する史跡を見学しました。クロスバルにいがたに集合した参加者は、路線バスで護国神社に移動し、戊辰戦争の戦死者を祀った墓所などを見学、附近のイタリアンレストラン「ミュージズ」で昼食をとった後、下町循環バスで願随寺を訪れました。ここは、幕末、新潟に来航した外国人を新潟奉行が接待した場所で、新潟開港以前の開港の最前線ともいべき場所です。ご住職から丁寧な説明をいただき、寺宝などを拝観しました。さらに、市内バスで新潟駅に移動し、この企画を終えました。

行程

- クロスバルにいがた～
- 護国神社史跡～
- ミュージズ(イタリアンレストランにて昼食)～
- 願随寺～新潟駅着



願随寺正門 佐藤荘松翁碑
新潟の図書館事業の父



願随寺境内 大江海門墓碑
幕末・明治にかけて活躍した新潟の学者。古銭コレクターとして全国に知られる。新潟に出版事業を起こした大江万里の父。



オプション企画2-2 人気の新潟日本酒 飲み比べ本町夜ツアー

会場／#きーぼうdo.(中央区本町通6) 案内人 若木 立也

新潟市の台所本町6番町。そこで主婦一人、商店街活性化の為に立ち上げたコミュニティ「きーぼうdo.」で新潟の食の話を聴きながら他では呑めない新潟厳選8銘柄酒飲み比べを開催しました。おつまみも店主オリジナルの新潟食材ワンプレート料理。料理とそれぞれの酒銘柄の特徴の説明や専門家による新潟の食についてのウンチクを聴きました。参加者全員、新潟日本酒のレベルの高さを実感。少しずつ供される銘柄の数々に酔いも回り、次第に参加者同士の打ち解けムードが最高潮に。新潟の日本酒が五港の人を繋ぐ架け橋になったような気がしました。



オプション企画2-3 新潟の郷土料理と 地酒を楽しむ会

会場／大佐渡たむら(中央区沼垂東2) 案内人 久保哲郎

「分科会2 過去と未来が醸すまち【沼垂】(ぬったり)まち歩きに参加出来なかった方も是非参加して下さい。」と副タイトルを付けましたが、新潟に来られた4都市の参加者は、昼と夜一人もだぶらなかったのは、不思議な現象でした。

当日追加の方もあり、18名が参加されました。顔ぶれは、5都市のレジェンドが集う場となり、函館市 佐々木会長、横浜市 国吉さん、神戸市 浅木会長、曹さん、奈良山さん、長崎市 原田さんなど開港5都市景観まちづくり会議を支えてこられた方が偶然集まりました。

大変和やかな中で新潟の郷土料理と地酒やワインなどを堪能して頂きました。途中から新潟市 元会長小柳さんが飛び入りで参加され、会は大変盛り上がりしました。正にレジェンドの会の様相になりました。

新潟港の今昔の映像あり、大佐渡たむら田村社長、沼垂ビール高野社長からまちづくりの話もあり、最後に地元沼垂の沼垂祭りの木遣りで締めくくりました。



志穂さん(新潟市)



井上さん(神戸市)



徳久さん(長崎市)



上野さん(函館市)



富山さん(新潟市)



岡部さん(横浜市)

オプション企画2-1 FG meeting 2nd

会場/旧第四銀行住吉町支店(中央区柳島町2) 案内人 西野 廣貴

7年目を迎えて、初めて全体会議Ⅱとして開催されたFG企画に続き、参加者同士の懇親と初参加者のプレゼンの場として、FGオプション企画が開催されました。会場は、新潟市歴史博物館みなとびあの敷地内にある旧第四銀行住吉町支店。昭和2(1927)年築造、平成16(2004)年に移築改修され、平成17(2005)年に国の登録有形文化財に登録されている歴史的建築物で、開港都市では唯一現存する運上所が近接している開港地です。

続々と会場入りする参加者で賑やかな雰囲気の中、FG新潟の本間さんの乾杯により、懇親会が始まりました。

温まった会場でのプレゼンター 1人目は、新潟市の古町芸妓志穂さん。若手である振袖さんの目線から普段のおもてなしや文化の普及活動、函館を訪問したときの様子を紹介し、神戸市の足立さんと藤本さんは、駅前広場での学生による演奏による活用の紹介、井上さんは、商店街の未来創造としてベンチや学びの場の設置、バル開催などの事例紹介、長崎市の徳久さんは、東山手洋館活用としてハロウィンなどのイベント紹介、横浜市の秋山さん、遠藤さん、坂口さん、久継さんは、横浜の魅力をYouTubeで楽しく発信しているトーク配信の紹介、函館市の上野さんは、西部地区のストック、空間活用、地域コミュニティ活用事例、続けることの大切さの気付きを紹介しました。

また、5年前にプレゼンを行った新潟市の富山さんは、昔と今の比較を写真で発信する新潟今昔写真の進化の様子を紹介し、その後、飛び込みで横浜市の岡部さんが心と体の健康に寄与するまちづくりWELLについて熱く叫びました。

これまでの大会での顔馴染みに多くの初参加者が加わり、参加者同士の交流やプレゼンには応援の声掛けがあるなど大変盛り上がりました。まさに開港の地でFGの活発な交流が行われたことは、「5港のキズナを未来へツナグ」のテーマを体現し、フレッシュで勢いに溢れた企画となりました。



秋山さん、遠藤さん、坂口さん、久継さん(横浜市)



新潟チーム発表



神戸チーム発表



長崎チーム発表



函館チーム発表



横浜チームA発表



横浜チームB発表

FG会議

会場/信濃川やすらぎ堤ミズベリング

本大会において新たなチャレンジが多く盛り込まれたFG企画ですが、最終日の朝は新潟市の象徴的なスポットでもある信濃川やすらぎ堤ミズベリングを会場にFG会議が開催され、澄み渡る快晴の空の下、前夜のFG meeting 2ndの熱冷めやまめ志高きFGメンバーが集結しました。企画段階から本会議は「目的をもった意思決定を行う機会」にすることを目標としており、本大会においてこのネットワークを活かして各都市の課題を解決するための具体的な手法を生み出すために、各都市に分かれグループワーク形式で意見出しを行いました。チーム分けにおいて各都市メンバーを敢えて混合せず、都市ごとに分けたことで客観的に課題や背景について話すことができ、より具体的な意見を抽出することができました。

それぞれの都市がこういう課題を抱えている。50年後を見据え、未来に向けた取り組みとして、こういうことをやっていきたい。各都市間で具体的な目標を共有でき、それが実際に行動につながりやすくて運動へと変化します。「こうしたい」から「こうなるべき」と同じベクトルの中で確実にフォーカスされている印象を受けました。FG会議が誕生し、2週目に入るフェーズです。このネットワークがより有意義な組織に進化できるように、また、函館大会へつなげられるように想いを込めて開催させていただきました。本大会においても、多くの新メンバーが参加しています。先達が築き上げてきた歴史ある本大会を、若き力で次世代へとつなぐ。温故知新の精神にて未来を照らせば、より良いまちづくりの糧になる。

実に盛りだくさんだった新潟大会におけるFG企画の集大成にふさわしい機会になりました。

～5港のキズナを未来へツナグ～ 次回、函館大会でも更に進化したFG会議にご期待ください。

(本間 海渡)



会場のpizza latte





行政会議

会場／クロスパルにいがた

行政会議では、「民間所有の歴史的建造物の活用に対する助成等について」、「夜間景観の形成について」、「景観条例、屋外広告物条例の周知方法について」の3つの議題に関して、各都市の状況などを共有し意見交換を行いました。



代表者会議

会場／クロスパルにいがた

今回の新潟大会で、「五港学」という新たなテーマが生まれたこと、またFG会議を全体会議としたことなど、過去も含め大会の流れは新潟が拠点となっているという意見がありました。議案の大会宣言案と次回開催都市「函館市」は、満場一致で可決しました。



全体会議Ⅲ

会場／クロスパルにいがた

全体会議Ⅲでは、各分科会と全体会議Ⅱの振り返りと、FG会議と代表者会議の報告があり、その後大会宣言の発表と次回開催都市である函館市への大会旗引き継ぎが行われ、3日間の会議は全て終了しました。

- Program
- 分科会報告
 - 閉会式
 - 大会宣言
 - 大会旗引き継ぎ
 - 次回開催都市あいさつ(函館市)
 - 主催者謝辞



開港5都市景観まちづくり会議 2022新潟大会



大会アピール

かつて二つの大河が一つとなり川湊として繁栄した新潟の地で、今年の「開港5都市景観まちづくり会議」が開催された。

「温故知新～五港のキズナを未来へツナグ」をテーマに、3連休の新潟を歩き、学び、語り、そして飲み、歴史と空間を超えた五港のつながりを改めて体感した。全体会議Ⅰでは、新潟から「五港学のススメ」として、開港5都市の歴史的なつながりに改めて光を当てる取組を提唱。続くパネルディスカッションにおいて、五港のキズナを活かした未来志向のまちづくりが語られた。全体会議Ⅱでは、FG会議を大会史上初めて全体会議として位置づけ、次世代を担う若者たちの活動について世代を超えて広く共有した。

今大会を契機に、それぞれの都市において五港の歴史を活かした景観まちづくりを発展させるとともに、これまで培ってきた五港のつながりをより強固なものとし新たな世代に引き継いでいくことを改めて確認し、ここに宣言する。

2022年9月25日
開港5都市景観まちづくり会議2022新潟大会
参加者一同



開港5都市景観まちづくり会議の沿革

回	開催年	開催都市	大会テーマ
第1回	1993年8月	神戸	坂のまちと旧居留地
第2回	1994年10月	長崎	市民主導のまちなみ・まちづくり
第3回	1996年2月	新潟	港といっしょになった都市、一体となった都市って何だろう？ 新潟らしさの提案
第4回	1996年10月	函館	北の開港都市に民の系譜を探る
第5回	1997年10月	横浜	開港都市の伝統・文化を活かした街づくり
—	1998年10月	神戸	【代表者会議】
第6回	1999年10月	神戸	開港都市の未来(あした)を探る ～共生する地域文化～
第7回	2000年10月	長崎	開港都市の遺伝子を伝える ～長崎から21世紀に発信する都市文化の創造～
第8回	2001年8月	新潟	水都(みなと)にいがた夏!! ようこそ ～新世紀の開港都市文化を暑い暑い新潟で語り合う～
第9回	2002年10月	函館	北の国からのメッセージ いいばや「港・まち並み」考えよう
第10回	2004年3月	横浜	150年の歴史とにぎわいづくり
—	2004年12月	神戸	【代表者会議】
第11回	2005年10月	神戸	開港都市のさらなる飛躍 ～明るく、元気!!～
第12回	2006年9月	長崎	開港によってもたらされた文化と歴史の継承
第13回	2007年11月	新潟	田園と港が会うまち、政令指定都市・新潟で語り合おう 実りの秋にいがたへ来なせや
第14回	2008年10月	函館	新・函館探訪 ～呼吸(いき)づくまを未来へ繋げ～
第15回	2009年9月	横浜	150年の贈りもの ～新たな旅立ちへ～
第16回	2010年10月	神戸	共生のまちづくり ～時間・空間・文化を超えて～
第17回	2011年11月	長崎	愛・絆・希望 5港の祈り ～長崎から～
第18回	2012年10月	新潟	新潟の「らしさ」を求めて ～過去・現在・未来へのつながり～
第19回	2013年9月	函館	再発見!“ひと”と”まち”をつなぐもの ～開港と食とラボ～
第20回	2014年10月	横浜	開港5都市の未来 これからもココから
第21回	2015年11月	神戸	開港都市からの発信 ～わたしたちのまちづくり～
第22回	2016年11月	長崎	継承と発展 ～次の世代の景観まちづくり～
第23回	2017年9月	新潟	語り合おう港への想い ～歴史と未来がつながる開港150周年～
第24回	2018年9月	函館	未来につなぐまちづくり ～今、立ち止まって考える。～
第25回	2019年11月	横浜	見つけよう、広げよう!開港都市の可能性
第26回	2020年10月	神戸	withコロナ時代の新しい景観まちづくり
第27回	2021年11月	長崎	ポストコロナ時代の「港」を生かしたまちづくり ～歴史・つながり・未来～

開港5都市景観まちづくり会議規約

(名称)

第1条 本会議の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議」(以下「景観まちづくり会議」という)と称する。

(目的)

第2条 景観まちづくり会議は、安政5年に開港港に指定された函館、新潟、横浜、神戸及び長崎の5都市(以下「開港5都市」という)の市民が景観、歴史、文化、環境などを大切にまもり、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力あるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港5都市のまちづくりの推進に資することを目的とする。

(活動)

第3条 景観まちづくり会議は、前条の目的を達成するために次の活動を行う。

- (1) 情報の交換
- (2) 共通の課題に対する調査研究
- (3) その他、前条の目的達成に必要な活動

(組織)

第4条 景観まちづくり会議は、開港5都市のまちづくりを実践する市民団体等で構成する。

- 2 必要に応じ、関係諸機関、団体等の参加を求めることができる。

(会議)

第5条 景観まちづくり会議の会議は、定期大会、代表者会議及びFuture Generation会議(以下「FG会議」という)とする。

- 2 定期大会は、原則として年1回会長が開催する。
- 3 代表者会議は、会長が必要に応じ開催することができる。
- 4 FG会議は、景観まちづくり会議の継承・発展のため、年間を通じて開催でFG会議事務局が開催する。

(役員)

第6条 景観まちづくり会議に会長を置く。

- 2 会長は、定期大会開催都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等の代表者をもってこれに充てる。
- 3 会長は、本会議を代表し、会務を総理する。
- 4 役員の任期は、定期大会終了から次期定期大会終了までの間とする。

(事務局)

第7条 景観まちづくり会議の事務局を会長都市の実行委員会またはまちづくりを実践する市民団体等に置く。

- 2 F G会議の事務局は、F G会議で別途定める。

(規約の改正)

第8条 本規約の改正は、景観まちづくり会議の代表者会議の議決によらなければならない。

附 則 本規約は、平成11年10月10日から施行する。

本規約は、令和 3年11月22日から施行する。

開港5都市景観まちづくり会議 大会歌

ウエルカム港街

作詞／小林直司 作曲／森本利

古い映画をみるような
歴史のロマンがおる街
この道をまた歩いてみたい
扉あければウエルカム
この街で
あなたもどうぞ珈琲を
函館 横浜 神戸 長崎 ウエルカム
ウエルカム ようこそ 新潟

演奏／森本利
2012年 新潟大会制定

はるかな沖の白い船
日本と世界つなぐ海
この丘をまた歩いてみたい
肩をたたけばウエルカム
この街で
あなたもいかがピアノ曲
函館 横浜 神戸 長崎 ウエルカム
ウエルカム ようこそ 新潟

輝く未来降るような
あなたと私つなぐ星
この街をまた歩いてみたい
乾杯すればウエルカム
この街で
もひとついかがバーボンを
函館 横浜 神戸 長崎 ウエルカム
ウエルカム ようこそ 新潟



開港5都市
景観まちづくり会議

開港5都市景観まちづくり会議 シンボルマークについて

開港5都市景観まちづくり会議のシンボルマークは、5都市にちなみ5つの帆が風を受けて広がっているイメージです。5つの色は、緑(自然生物)、ピンク(愛)、青(海と空)、黄(コミュニケーション)、紫(文化)を表し、5つの開港都市を示しています。

2001年 新潟大会制定 design by Yukihiro Oyanagi

参加団体

◎函館市

株式会社はこだて西部まちづくRe-Design
五稜郭の文化価値を考える会
函館市伝統的建造物群保存会
函館デザイン協議会
函館の歴史的風土を守る会
北海道教育大学函館校
NPO法人はこだて街なかプロジェクト
函館市役所

◎横浜市

公益社団法人横浜歴史資産調査会
特定非営利活動法人まちづくりエージェンツ SIDE BEACH CITY.
ヘリテイジタイムズ横浜・神奈川
ヨコハマ海洋市民大学実行委員会
横浜商科大学
横浜都市デザイン50周年事業実行委員会
横浜の文化を愛する会
よこはまYYラボ
2019横浜大会運営メンバー
NPO法人横浜シティガイド協会
Yocco株式会社
横浜市役所都市デザイン室

◎神戸市

美しい街岡本協議会
北野・山本地区をまもり、そだてる会
旧居留地連絡協議会
神戸元町商店街まちなみ委員会
コネクト神戸
三宮中央通りまちづくり協議会
新長田駅北地区東部いえなみ委員会
地域問題研究所
トアロード地区まちづくり協議会
南京町景観形成協議会
神戸市都市局景観政策課

◎長崎市

大浦青年会
十善寺地区まちづくり協議会
長崎居留地歴史まちづくり協議会
長崎都市・景観研究所
長崎東山手洋館活用プロジェクト/Pavè
深堀地区まちづくり推進協議会
長崎市役所

主催：

開港5都市景観まちづくり会議 新潟大会実行委員会

新潟市景観ネットワーク

(団体会員)

新潟商人塾
新潟学の会
新潟市南商工振興会
にいがた花絵プロジェクト実行委員会
ユニバーサルカラープランナー協会
沼垂ストーリー形成連絡会

(個人会員)

特定非営利活動法人新潟海洋開発
任意団体にいがた社中
歴史都市新潟研究会
DJ TabiiT
NPO法人新潟水辺の会

市民公募委員

アート集団手部
株式会社MICEブレイン
公民連携ゼミ
一般

共催：

新潟市

協力(順不同)：

リコージャパン(株)新潟支社
今代司酒造株式会社
株式会社峰村商店
テラス商店会
沼垂ビール株式会社
新潟市立沼垂小学校
いわむロックFESTIVAL実行委員会
NIIGATA MUSIC LABORATORY